

教育  
学校教育学部  
(別添資料)

平成28年6月  
兵庫教育大学

## 目 次

(別添資料1) ベストクラス選定理由書	1
(別添資料2) 教員養成スタンダード(小学校版)(抜粋)	2
(別添資料3) カリキュラムマップ	5

ベストクラス選定理由書

作成者：澁江靖弘，山端真司，吉水裕也

科目名称	社会の中の言語文化		
	(担当教員名： 菅井三実 )		
課程	学部1年次	開講時期	前期
授業形態	講義	授業規模	81人以上
インタビュー対象教員名	菅井三実 (実施日時：6月24日(水)13時～14時；実施場所：教育・言語・社会棟2階)		
インタビュー対象受講者名	矢野新菜，山本真由 (実施日時：7月8日(水)12時30分～13時；実施場所：事務局2階中会議室)		
選定理由	<p>受講生130人中100人以上が1年生であるこの授業では、高校の内容を超え、さらに高いところから見るような授業、つまり大学らしい授業づくりが心がけられている。</p> <p>授業では、世界には4桁の数の言語があり、歴史的に見ると家系図のように言語が分かれたり消滅したりすること、日本は1つの言語の国ではないことなど、言語に関する基礎知識が扱われている。それらの内容を通して言語について相対化すること、そして、言語についての視野を広げることがねらいとされている。学生は外国語と言えは英語だと考える傾向があり、またそれが標準だという意識がある。例えば、日本語と英語を比較すると、日本語の語順と同じ言語が半数位で、英語のような語順を取る言語は相対的に少ないことや、スペリングどおり発音しないという点でも英語が特異な言語であることなど、学生の常識とは異なる興味深い内容が豊富な資料(毎時A4で5枚程度)と共に扱われている。また、1年生が多い授業であるため、レポートの書き方も詳しく扱われている。大学生のレポートとして成り立つように、導入、結果、考察という形式や、参考文献の書き方、「」の使い方、段落の作り方などを、過去のレポートをサンプルとして検討しつつ扱われる。学生は、この授業で学んだことを他の授業にも生かしている。</p> <p>授業では、学生にできるだけ話しかけたり、揺さぶりをかけたりする工夫がなされている。ワイヤレスマイクを渡す、ランダムに指名するなど、対話をする工夫である。学生が発言するように、学生からの質問の良さをほめるなどのことも積極的に行われている。</p> <p>学生は、これらの工夫を肯定的に受け止めており、思考することの楽しさを味わいながら積極的に授業に参加している。例えば、方言を題材にした授業では、母音の多い・少ないなど方言は自分にとって身近なものだと感じたり、方言は地方によって意味は同じでも言い方が異なること(例：捨てる、ほかす等)や分布に規則性があることを学んだり、まわりの人とも考えたりする時間がとれたことや、積極的に調べたことを通して、自分たちの言葉を見つめ直す機会となったようである。</p> <p>授業の目標が明確に設定され、それが学生と共有された上で達成されていると考えられること、基礎的かつ自分自身が使っていることばを相対化できるような内容を提供していること、受講生が考えることを楽しみながら言語に関する視野を広げることができていると考えられること、考えるための手だてを意図的に組み込んでおり学生が楽しみながら参加していること、からベストクラスとしてふさわしいと考える。</p>		

## 教員養成スタンダード(小学校版)

教員養成スタンダード			教員養成スタンダード					
領域	中項目	項目	領域	中項目	項目			
1. 学び続ける教師	① 省察的実践	1 常に自らの学びを省察し、課題を見つけて改善することができる	3. 基づく学級も経営・解に生徒指導	生徒指導	28 子どもの基本的な生活習慣の重要性を理解し、指導を行うことができる			
	② 研究を通じた専門性向上	2 研究活動を通じて絶えず自らの専門性の向上を図ることができる			29 学校の規則や子どもが自分たちで作った決まりを守ることの大切さについて指導することができる			
	③ 長期的視野に立つ職能成長	3 長期的視野に立って、自らの職能成長を図ることができる			30 子どもの問題行動の背景を多面的にとらえ、対応方法を考えることができる			
2. 教師としての基本的素養	① 社会人としての素養	4 言葉づかい、挨拶、礼儀、マナーなどの社会人としての常識を身につけている	4. 教科等の指導	① 内容理解	31 教育相談の意義、理論や技法に関する基礎的知識を持っている			
		5 集団での活動において、リーダーシップを発揮することができる			32 キャリア教育の意義を理解し、その指導に必要な理論や方法に関する基礎的知識を持っている			
		6 自らのストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる			33 学習内容の系統性や各学年間のつながり等を含め、学習指導要領の主な内容を理解している			
		7 日本及び外国の文化・歴史、環境問題、平和問題等についての幅広い知識を持っている			34 教科等の内容に関する専門的知識を有し、実際の指導に活かすことができる			
		8 教師としての使命感を持ち、その役割と職務内容を理解している			35 教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことができる			
		9 教育に関する社会的・制度的事項を理解し、現代の学校教育の課題を把握することができる			36 子どもの実態や地域の特色に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる			
		10 教育の理念・歴史・思想について理解し、自らの教育観を深めることができる			37 主な学習指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる			
	② 教師としての素養	11 教育課程の意義や編成の方法について基本的事項を理解している		② 授業方法・指導技術	38 各教科等の内容に即した指導方法について理解し、活用することができる			
		12 子どもに対して正しくわかりやすい言葉づかいができる			39 板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている			
		13 学校生活の様々な場面で子どもの興味・関心・意欲を喚起するための工夫を行うことができる			40 学習内容の習熟の程度などを踏まえて、個に応じた指導を試みることができる			
		14 人権を尊重しながら子どもにかかわることができる			41 子どもの多様な思考を生かしながら、子どもの協同的な学習を促すことができる			
		15 子どもの安全管理に関する基礎的知識を有し、指導に活かすことができる			42 授業中の子どもの学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる			
		16 素直に他の教師に相談するとともに、他の教師の意見に対して謙虚に耳を傾けることができる			③ 授業計画	43 各教科等の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画や本時案に反映させることができる		
		17 主な情報通信機器の利用方法を理解し、教育活動に活かすことができる				44 単元計画と子どもの実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる		
		18 自らが学校組織の一員であることを理解し、組織内での自らの役割を自覚している				④ 授業研究	45 授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる	
		① 子ども理解			19 子どもの発達に関する基礎的知識を有し、子ども一人ひとりの理解に活かすことができる		⑤ 学習評価	46 子どもの学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる
					20 子ども一人ひとりの特性や心身の状況を生活環境や生育歴を含めて多面的にとらえることができる	① 他教師との連携・協働		47 子どもに関わる情報を他の教師と共有する姿勢を持っている
					21 子ども同士の関係や仲間集団を把握し、指導に活かすことができる			48 様々な場面で他の教師と協働する姿勢を持っている
22 公平かつ受容的・共感的な態度をもって子どもにかかわることができる	② 保護者・地域等との連携・協働		49 学校と保護者・地域・他の専門家・他職種との連携の重要性や役割分担について理解している					
23 特別支援教育に関する基礎的知識を有し、子どもの指導や支援に活かすことができる			50 保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応する姿勢を持っている					
② 学級経営			24 学級担任の役割と職務内容に関する基礎的知識を持っている					
		25 学級経営案の意義を理解し、作成することができる						
	26 子どもとの信頼関係の重要性を認識し、その構築に努めることができる							
	27 教室掲示や座席配置を工夫するなど、子どもが生活や学習をしやすいよう教室環境を整えることができる							

## 6. 教員養成スタンダードに基づく自己評価

教員養成スタンダードによって示されるそれぞれの資質能力は、「CanPass ノート」を使って、各自が行う自己評価によって主に確認されます。CanPass ノートにはみなさんが作成した成果物（授業レポートやメモ等）や、定期的に求められる振り返りの記録などが蓄積されるとともに、スタンダード項目ごとに授業科目の成績から導きだされる TSS（Teachers' Standard-based Score）などが記録として残されます。

教員養成スタンダードに基づく自己評価は、CanPass ノートに記録された TSS や蓄積された成果物（レポートや実習記録など）、振り返りの記録などに基づき行います。そのためには、成果物を定期的に CanPass ノートに記録することや、定期的に振り返りを行い、記録を残すことが大切です。また、成果物の蓄積状況や振り返りの記録状況などは、クラス担当教員やゼミ教員などに定期的に確認を受ける必要があります。

自己評価は、小学校の場合 50 項目の教員養成スタンダードの下位に設けられた「自己評価のための具体例」に基づき、4 段階の尺度（1. できない、2. 少しできる、3. ほぼできる、4. 十分できる）で行います。

卒業時には、次の①、②両方の基準を満たすことが求められます。

- ①卒業時に全スタンダード項目で、2（少しできる）以上となること
- ②卒業時に 10 項目以上で、3（ほぼできる）か 4（十分できる）となること

※CanPass ノートへは、履修確認や成績確認のための教育支援システム（LiveCampus）からログインできます。（自宅等学外からもログインできます。）

### ▼CanPass ノートとは

兵庫教育大学に入学した学生全員が利用する電子ポートフォリオ・システムの名称です。（ポートフォリオは、本来「紙挟み、書類かばん、作品集など」を意味します）インターネットに接続されたパソコンから、日々の活動記録、自己評価や振り返りを入力したり、レポートや実習記録などの様々な成果物を記録したりすることや、蓄積されたデータを確認することができます。

### ▼TSS (Teachers' Standard-based Score) とは

「カリキュラムマップに基づき各授業科目の成績から導かれた教員養成スタンダードに関するスコア」のことであり、自己の成長を確認するためのものです。

教員養成スタンダードの5領域（小学校：①学び続ける教師、②教師としての基本的素養、③子ども理解に基づく学級経営・生徒指導、④教科等の指導、⑤連携・協働）ごとに計算され、3年次以降 CanPass ノートで確認できます。（レーダーチャートで表示）

計算方法は、カリキュラムマップに基づき各授業科目の成績から導かれたスタンダードに関する重みづけ（S=4.0、A=3.0、B=2.0、C=1.0、F=0）に基づき、GPAと同様に算出します。（F評価の授業科目の単位数も分母に算入します）また、30単位を修得するごとに0.5点の加点を行います（加点は2.0が上限）ので、理論上の最高のスコアは6.0となります。

## 7. 教職実践演習と教員養成スタンダード（CanPass ノート）

教職実践演習は、4年次後期に開講する必修科目です。兵庫教育大学での授業科目の履修や課外での様々な活動を通じて、みなさんが身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終確認します。

この必修科目である教職実践演習を履修するためには、CanPass ノートにみなさんが蓄積した成果物（授業レポートやメモ等）、日々の活動記録や振り返りの記録などを基に、①教員養成スタンダードに基づく自己評価が各学年でしっかり行われていること、②3年次の終わりに作成する「卒業準備ファイル」が完成していることが必須になります。

1年次から CanPass ノートをしっかり活用していきましょう。



教育実践・リフレクシオン科目群②

年次	学び続ける教師										教師としての基本的素養										教師としての素養										子ども理解					学級経営	
	有察の実践		研究を通じた専門性向上		長期視野に立つ職能成長		社会人としての素養					教師としての素養					教師としての素養					子ども理解					学級経営										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25												
教育実践・リフレクシオン科目群	常に自ら省察し、課題を見つけて改善することができる	研究活動を通して、自らの専門性を高めることができる	長期的視野に立つことで、自らの職能成長を図ることができる	言葉づかい、挨拶、礼儀、マナーなど、社会人としての常識を身につけている	集団での活動において、リーダーシップを発揮することができる	自らのストレスと、身体の健康に自己管理することができる	日本及び外国の文化・歴史・環境史・問題・平和問題等について幅広い知識を持っている	教師としての使命感を持ち、その役割と職務内容を理解している	教育に関する社会的・制度的・政策的事項を理解し、現代の学校教育の課題を把握することができる	教育の理念・歴史・思想について理解し、自ら教育の意義を深めることができる	教育課程の意義や構成の仕方について、基本的な事項を理解している	子どもに対して正しくわかりやすい言葉づかいができる	学校生活の中で様々な場面での意欲を喚起する工夫を行うことができる	人権を尊重し、子どもにかかわることができる	子どもの安全管理に関する基礎的知識を有し、指導に活かすことができる	素直に他の教師に相談するほか、他の教師の意見に対して謙虚に傾けることができる	主な情報通信機器の利用方法を理解し、教育活動に活かすことができる	自らが学校組織の一員であることを理解し、組織内で役割を自覚している	子どもの発達に関する基礎的知識を有し、子どもの育歴を含めて多面的に活用することができる	子ども一人ひとりの特性や状況を生かして、子ども一人ひとりの育歴を踏まえて指導することができる	子ども同士の関係や仲間意識を醸成し、指導もってかわることができる	公平かつ受容的・共感的な態度をもって子どもとかわることができる	特別支援教育に関する基礎的知識を有し、子どもの発達に活かすことができる	学級担任の役割と職務内容に関する基礎的知識を有し、子どもの発達に活かすことができる	学級経営の意義や課題の理解を深め、学級経営の改善に努めることができる												
教育情報メディア実習(実地教育VI)	●	●	●	●												●																					
マイクロティーチング実習(実地教育V)	●	●	●	●												●																					
学校観察実習(実地教育I)	●	●	●	●			●									●						●															
フレンドシップ実習(実地教育II)	●	●	●	●	●		●									●						●															
初等基礎実習(実地教育III)	●	●	●	●	●	●	●									●						●															
初等応用実習(実地教育IV)	●	●	●	●	●	●	●	●								●						●															
初等実習リフレクシオン(実地教育)																																					
初等実習リフレクシオン(学校教育)																																					
初等実習リフレクシオン(実地教育)																																					
初等実習リフレクシオン(学校心理)																																					
初等実習リフレクシオン(英語)																																					
初等実習リフレクシオン(音楽)																																					
初等実習リフレクシオン(美術)																																					
初等実習リフレクシオン(保健体育)																																					
初等実習リフレクシオン(家庭)																																					
初等実習リフレクシオン(総合学習)																																					
学校サポーター体験学習Ⅰ	●	●	●	●	●	●	●	●								●						●															
学校サポーター体験学習Ⅱ	●	●	●	●	●	●	●	●								●						●															
学校サポーター体験学習Ⅲ	●	●	●	●	●	●	●	●								●						●															
インターンシップ実習	●	●	●	●	●	●	●	●								●						●															

【下段に続く】